

日 時：2016年5月19日（木）～5月20日（金）

場 所：福島県南相馬市

参加人数：20名

1. 活動参加にあたって

「できる人が、できる時に、できる事をする。」

福島県南相馬市ボランティアセンターに貼られていたポスターに書かれている言葉です。

これまでボランティア活動というものに参加したことがなかったのですが、専従になったことをきっかけに、自身のスケジュールを管理できる立場になった今こそ行かなくては！と思い立ち参加することにしました。東日本大震災発生時には、現実とは思えないような映像を目の当たりにし、被災された方々のために何かできればと思いつつも日々の業務に追われ、募金の協力をするぐらいしかできませんでした。ボランティア未経験の私が参加したところで、何のお役に立てるのかも不確かでしたが、私にとっての「できる」時が今回だったのだと思います。

2. 活動内容について

震災から5年が経過した現在のボランティア需要としては、当該地区は高齢者が多いことから、個人宅敷地内の裏山(竹林・雑木林)の手入れといったお手伝いが数多くあると伺いました。



一日目は、午前中の約2時間と午後約2時間の計4時間、個人宅裏山の竹林の伐採のお手伝いをさせていただきました。震災後一度も手入れを行っておらず、伸び放題になっている所を伐採・運び出し・枝葉落とし・裁断と役割を分担して行いました。私は枝葉落としを担当しましたが、経験者の方にご指導いただき、竹の枝葉は工具のバールを使って繊維の方向に沿って根元を叩くと気持ちよく取れることがわかりました。次の春にはおいしい筍が収穫できることを祈ります。

二日目は、個人宅敷地内の不要になったビニールハウスの解体をさせていただきました。

作業時間約3時間と限られた時間の中、前日に引き続き各作業を手分けし、連携して行うことで取り急ぎ解体が必要だった一棟は解体完了することができました、時間の都合でご依頼のすべての作業

を終えることはできませんでしたが、翌日からの第 22 回班が引き継ぎ、解体を完了してくださったと伺い感謝しております。



今回、福島県南相馬市ボランティアセンターでマッチングしていただき、私たちが行った作業はどれも人数が多い方がはかどることばかりだったので、団体で参加するスケールメリットを大いに活かすことができたと捉えています。

3. 今回の活動を通じて

復興支援活動に参加して、あらためて2つの「つながり」を実感することができました。

ひとつめは、「人」とのつながりです。複数回参加されている経験者からボランティア初経験まで幅広く JTB グループで働くもの同士が集まりましたが、「被災地の方々のために何かしたい」という思いが共通していたことから初対面の方も多量中、知らず知らずのうちに一体感が生まれていました。また、会社を跨いだ組合員の相互交流ができることも、参加することで得られるメリットだと思います。関西支部からも 2 名の組合員が参加してくれましたが、これまで接点を持つことができていなかった組合員と一緒に活動できたことで、今後の単組での活動の輪がさらに広がることを期待します。

二つめは、「社会」とのつながりです。5 年が経つ現在も様々なボランティア需要があり、完全な復興までは未だ至っていないことから、属人だけではなく連合会という組織単位で次世代にバトンを受け渡しながら今後も取り組みを継続していくことが重要だと思いました。そのためには、連合会・各組合の活動内容を組合員へ広く伝えることの必要性も感じました。

復興支援活動を通じて地域社会に貢献することは、日本の観光産業の振興と発展につながり、結果として JTB グループの信頼と企業価値にもつながるのだと思います。



以上